

政策パッケージの取組状況（7月17日時点）

目標	取組事項	取組状況
【目標 1】 国民の安全・ 安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・予報・予測精度の改善 ・適確な注意喚起の実施 ・中国在留邦人対応の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・国立環境研究所と協働してシミュレーションモデルの高度化を実施中 ・H26 春～冬期の注意喚起実績を解析中（資料 2、3 により解析結果を一部説明） ・在留法人向け情報を PM2.5 情報ページに追加（7/17）（別添）
【目標 2】 環境基準の達成	<ul style="list-style-type: none"> ・PM2.5 の現象解明と削減対策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央環境審議会微小粒子状物質等専門委員会において総合的な議論を開始。年度内に「国内における排出抑制策の在り方（中間取りまとめ）」を取りまとめ予定。（第 1 回：3/12、第 2 回：5/26）
【目標 3】 アジア地域における正常な 大気の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・アジアにおける地域的取組の推進 ・二国間連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中韓政策対話の実施（3/20-21） ・TEMM16 の開催（4/28-29） ・都市間連携に関する会合を開催（6/10）

取組の基盤となる事業	取組状況
発生源情報の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・排出インベントリ及び発生源プロファイルの策定に取り組み中。26 年度は、主要な発生源の排出状況を取りまとめる予定。
二次生成機構の解明	<ul style="list-style-type: none"> ・二次生成粒子の挙動解明に関する文献調査を実施、取りまとめ中。
シミュレーションの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・26 年度より、既存の PM2.5 シミュレーションモデルに、最新の有機エアロゾル二次生成機構を取り入れたモデルを導入するなど、再現性を高めるための研究を実施中。 ・25 年度までに、越境大気汚染の寄与等に係る研究を実施し、一定の知見を整理。26 年度より、発生源ごとの寄与割合の推計が可能なモデルの構築に取り組み中。
大気環境モニタリングの 充実	<ul style="list-style-type: none"> ・PM2.5 の常時監視測定局は 25 年度末時点で約 850 局。26 年度末には約 1000 か所となる見込み。
健康影響に関する知見の 集積	<ul style="list-style-type: none"> ・肺機能発達に係る疫学調査等の実施。 ・呼吸器症状への影響に関する調査研究結果の公表（5/12）

中国在留邦人保護に関する PM2.5 情報サイトの紹介

【これまでの内容】

1. 微小粒子状物質 (PM2.5) とは
2. 環境基準について
3. 注意喚起のための暫定的な指針
4. 現在の状況 (各地の大気常時監視速報値掲載サイト等へのリンク)

【追加する内容】

5. 中国在留邦人及び中国進出企業関係者の方々へ

- 中国では、日本国内の PM2.5 濃度と比較して極端に高濃度の状況になる場合があります。中国政府や米国大使館等が中国各都市のリアルタイム速報値を公表しています。
 - [中国環境保護部 \(中国語\)](#) / データの見方は [こちら](#)
 - [米国大使館 \(英語\)](#) / [日本語版はこちら](#)
- 高濃度汚染時には、中国地方政府 (北京市、上海市等) がテレビ、ラジオ、ネット等で注意喚起を実施しています。また、在中国日本大使館又は領事館等がメールマガジンによる関連情報を配信しています (事前のメールアドレスの登録が必要です)。
 - [北京市応急プラン \(在中国日本国大使館による仮訳\)](#)
 - [上海市応急プラン \(在上海日本国総領事館による仮訳\)](#)
 - [メールマガジンへの登録 \(北京・瀋陽・大連・青島・上海・広州・香港\)](#)
- 高濃度汚染時 (環境省暫定指針: 日平均値 $70\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以上) には、以下の対策が望まれます。
 - ① 不要不急の外出や屋外での長時間の激しい運動をできるだけ減らす (呼吸器系や循環器系疾患のある者、小児、高齢者等においては、体調に応じて、より慎重に行動することが望まれる)。
 - ② 外出する場合は、PM2.5 に対応するマスクを着用する (なるべく顔との隙間ができないよう自分の顔に合った形状、サイズのマスクを選ぶ)。また、帰宅後は、手洗いやうがいを徹底する。
 - ③ 屋内では、換気や窓の開閉は最小限にして可能な限り外気を遮断し、PM2.5 に対応する空気清浄機を運転する。また、定期的にフィルターの清掃・交換を行う。
- ぜん息などの症状が悪化した場合には、医療機関等へ相談して下さい。なお、(独)環境再生保全機構ではぜん息や COPD (慢性閉塞性肺疾患) に関する悩みや疑問について、専門医・看護師による無料のメール相談を実施しています。
 - [ぜん息・COPD メール相談のご案内 \(環境再生保全機構\)](#)
- 環境省では、(一社)日本経済団体連合会、商工会議所、医師や業界団体 (マスク: (一社)日本衛生材料工業連合会 (全国マスク工業会)、空気清浄機: (一社)日本電機工業会) の協力をいただき、日本国内で説明会を開催しています。
 - [過去の説明会資料はこちら](#)

中国各都市のリアルタイム速報値の見方について

中国環境保護部「全国都市大気質リアルタイム公表プラットフォーム」



都市の選択



付近の測定ポイントに
カーソルを合わせる

中国におけるPM2.5に関する日本国内での説明・相談会

- 平成 25 年度
 - 平成 26 年 2 月 27 日(木) 大阪商工会議所
 - 平成 26 年 3 月 5 日(水) 北九州商工会議所
 - 平成 26 年 3 月 11 日(火) 経団連会館
 - 平成 26 年 3 月 14 日(金) 東京商工会議所
 - 環境省 発表資料
 - 兵庫医科大学公衆衛生学教室教授 島 正之氏 発表資料
 - 産業医科大学呼吸器内科学講座教授 迎 寛氏 発表資料
 - (一社) 日本衛生材料工業連合会 発表資料
 - (一社) 日本電機工業会 発表資料